

審 査 の 結 果 の 要 旨

氏 名 蔣 宏 偉

本研究は、農村部の市場経済化にともなう換金作物開発が村落社会の生存構造を急速に変化させつつある中国・海南島の1村落を対象にした研究であり、対象村落が換金作物を受容するプロセスを過去20年間にわたって再構築し、換金作物の受容にかかわる世帯間差の要因分析をおこなうとともに、換金作物の受容が世帯の栄養摂取、労働時間、栄養状態、生活の満足度にどのような影響を及ぼしたかを検討し、下記の結果を得ている。

1. 換金作物導入のプロセスにおいて、ある個人の成功というエポックイベントが、村落レベルで換金作物の受容がすすむ重要な要因になっていることが明らかになった。
2. エポックイベント前の時期（1985-1994年）を対象にした分析によると、1985-1994年の世帯の余剰米総量と1994年時点での換金作物畑の面積との間に相関関係がみられた（Spearman's $r=0.69$, $p=0.001$ ）。世帯の労働力は換金作物畑の面積と関連していなかった。一方、エポックイベントの後の時期（1995-2004年）を対象にした分析では、1995-2004年の世帯労働力（成人の数）が2004年の換金作物畑の面積と相関していた（Spearman's $r=0.57$, $p=0.008$ ）。この結果は、エポックイベントの前と後で、換金作物畑の開発に影響する世帯要因が変化したことを示唆している。
3. 食事調査の結果によると、換金作物期における保力村の成人1人あたりエネルギー摂取量は9.9 MJ、タンパク質摂取量は68.2 gであった。生活時間調査によると、成人1人あたり労働時間は4.6時間で、そのうち3.2時間が換金作物栽培に費やされていた。労働時間から判断して、観察されたエネルギー摂取量は、エネルギー消費量と対応していた。また、摂取タンパク質レベルは、保力村で消費されるタンパク質の正味利用率

(NPU) を 65% と仮定して算出した安全摂取レベル(62.0 g)を上回っていた。

4. 世帯が所有する収穫後換金作物畑の面積とタンパク質摂取量との間にはマージナルな正の相関関係がみられた (Spearman's $r=0.55$, $p=0.08$)。また、世帯が所有する収穫前換金作物畑の面積と換金作物栽培に費やす労働時間との間には正の相関関係がみられた (Spearman's $r=0.75$, $p=0.01$)。
5. 成人を対象とした生体計測の結果、平均 BMI は男性で 19.6、女性で 20.5 であった。18歳以下の対象者について中国の生体計測標準値をもとに計算した Zスコアによると、保力村の子供は軽い低栄養状態にあることが示唆された。成人および子供の栄養状態と世帯の換金作物栽培状況との間に一貫した関連性はみられなかった。
6. 世帯の換金作物畑面積と、申告された肉類の摂取頻度、年収、主観的な生活の満足度との間には関連はみられなかった。

本研究では、調査者が現地の言語を習得し、村落内に長期間住み込むことによって対象者との人間関係を構築し、このことによって、換金作物の導入のプロセスにかかわる詳細なデータを収集できただけでなく、これまでデータの少ない地域における食事調査や生活時間調査を実施することができた。さらには、地理情報システムやリモートセンシングを利用することで、定量的な環境評価・土地利用変化と人々の活動を結びつけて分析することができた。このような調査は中国農村部においてほとんど例がなく、東南アジアにおける人類生態学・農村開発学の研究に寄与するものであり、学位の授与に値するものと考えられる。